

1 平成 30 年 3 月期 中間期の連結業績（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）

（百万円未満切捨て）

（1）連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
29 年 9 月中間期	57,800	3,083	3,229	1,586

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29 年 9 月中間期	108,596	50,390	39.2

（注）連結子会社は 15 社

2 平成 30 年 3 月期の連結業績予想（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通 期	125,000	12.6	6,400	24.1	6,500	21.7	3,200	△28.0

※ 上記の予想は本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

3 当中間期における事業の概況および下期の見通し

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益が明確な改善をたどり、民間設備投資は緩やかな増加基調を示す傾向にあり、全体としての景況感は、北朝鮮情勢の緊迫化や円高急進等の不安要素も懸念されますが、総じて持ち直し傾向が続いています。

当社グループが属する建設業界におきましては、首都圏の大型プロジェクトの進行や人手不足に対応した省力化投資の増加から、総じて需要は底固く推移する傾向となりました。

このような環境の下、当社グループでは、独自工法・提案型商品の PR の強化に取り組むとともに、採算性を重視した受注活動を行うことにより収益力の向上に取り組んでまいりました。

当中間連結会計期間の連結業績は、昨年度グループに加入した日本ノーディングテクノロジーが連結損益に反映したこと及び国内の工事案件が進捗したことによる売上増加により、売上高 578 億円、営業利益 30 億 83 百万円、経常利益 32 億 29 百万円、親会社株主に帰属する中間純利益 15 億 86 百万円となりました。

当下半期の見通しとしましては、引き続き工事進捗遅れ等の影響が懸念されるものの、公共投資、民間設備投資共に堅調に推移するものと想定しております。一方グループとしましては、10 月 1 日より持株会社制へ移行、国内外 16 社のグループとして、これまで以上に事業推進体制を強化してまいります。連結業績予想につきましては、売上高 1,250 億円、営業利益 64 億円、経常利益 65 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 32 億円を見込んでおります。

以 上